

産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業
【テーマA】教育改善・充実体制整備 最終評価結果

大学グループ名	新潟大学グループ
取組名称	産学協働による学生の社会的・職業的自立を促す教育開発
取組テーマ	1. 学生の社会的・職業的自立に関する教育の改善・改革 2. 自律的人材育成のためのPBL型インターンシップの高度化 3. 学生のキャリアパス・キャリア準備性の確立を目的とした教育実践の質向上
取組担当者	新潟大学農学部長 新村末雄
連携校名 (★幹事校)	茨城大学、群馬大学、★新潟大学、上越教育大学、共栄大学、駿河台大学、 聖学院大学、西武文理大学、ものづくり大学、敬愛大学、千葉科学大学、 千葉商科大学、新潟工科大学、新潟青陵大学、植草学園短期大学、 聖徳大学短期大学部、新潟青陵大学短期大学部、千葉大学 (計18校)

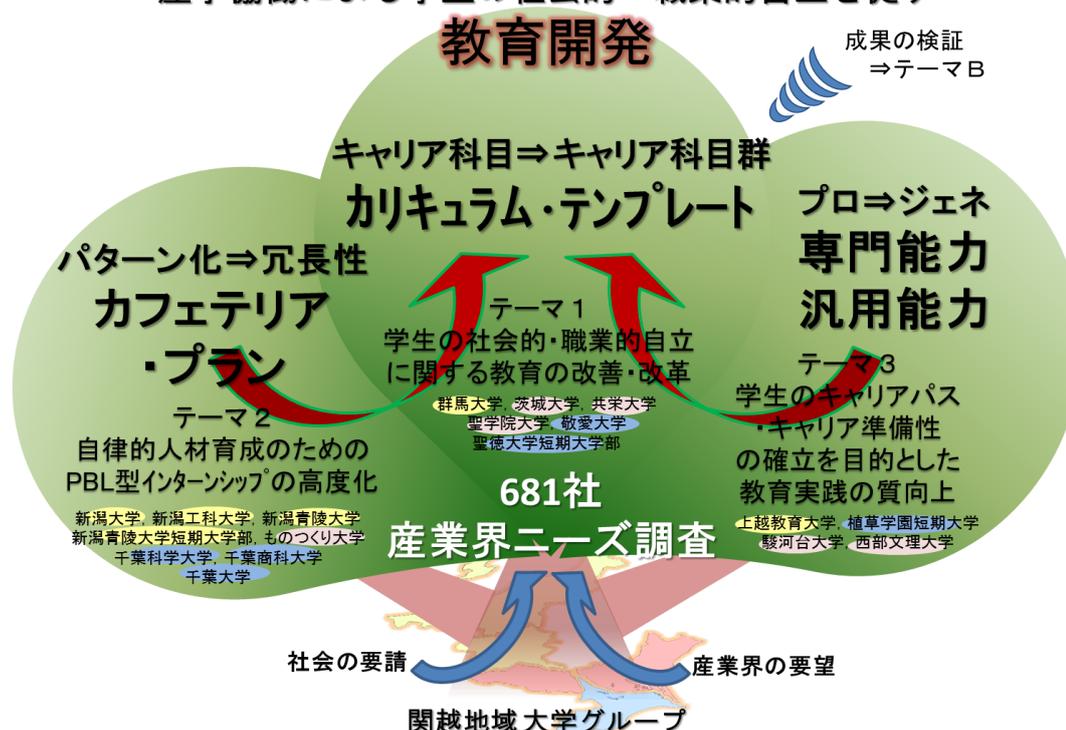
事業概要

本大学グループの取組では、学生の社会的・職業的自立を目指す大学教育を体系的・継続的に行うために、3つのテーマを設定し、産業界のニーズや社会の要請を考慮した教育の改善・改革による新たな教育システムの構築を行った。

その結果、各テーマの成果を統合し、産業界と大学間の共通資源として人材育成に活用できる、インターンシップをはじめとするキャリア科目を体系的に組み合わせた教育システムを提示、実践した。

※詳細については、<http://www.kanetsu-gp.jp/> を参照。

産学協働による学生の社会的・職業的自立を促す



最終評価結果<総合評価> S

《コメント》

幹事校を中心として、各参加大学が大学の特徴を生かしてテーマに取り組み、各大学が属する地域での産業界との連携を実践しており、当初の計画を超える取組として評価できる。新たな教育体系の構築を中心とするプラットフォームの基盤整備を行い、カリキュラム・テンプレート、カフェテリア・プラン、実践教育事例の開発等がなされ、今後、これらの成果物が、インターンシップの充実、PBL型インターンシップの高度化・最適化に有効なツールとして活用されることが期待できる。取組に産業界を積極的に巻き込み、また、参加大学間での自主的な相互連携が始まっている点で、支援期間終了後も連携体制の継続が可能であると評価する。

一方で、取組をより充実し継続して実施するためには、目標の定量化等、優れた評価基準、評価体制が整備されることを望みたい。また、経済団体との連携について、講演会の開催のみでなく、より具体的な取組が実施されるよう、更なる強化を望みたい。今後、カフェテリア・プランをどのように使いこなし、遠隔地連携につなげてゆくのか、支援期間終了後の展開に注目したい。